

## 「神は何でもできる」

2014年10月09日

マルコによる福音書 10章 23節～31節。イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」弟子たちはますます驚いて、「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言った。イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」ペトロがイエスに、「このとおりに、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と言いだした。イエスは言われた。「はっきり言うておく。わたしのためまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、今この世で、迫害も受けるが、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける。しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

主イエスは富める青年に、持っている物を貧しい人々に施し、私に従えと言われた。彼は財産を失いたくないと、悲しみながら、背を向けて立ち去った。その後、主イエスは弟子たちを見回し「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか」と言われた。この言葉は弟子たちにとって、価値観をひっくり返すような衝撃的なものであった。豊かになることが神の祝福に与っている証拠と考えられていたからである。驚く弟子たちに更に「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」と続けられた。らくだが針の穴を通ることは不可能である。金持ちが神の国に入るのは、そのように不可能であると言われた。主イエスは、金持ちが貧しい者から金品を収奪する経済の動きを知っておられた。富める者の傲慢に対する強烈な批判である。弟子たちは驚愕して「それでは、だれが救われるのだろうか」と互いに言い合った。主イエスは弟子たちを見つめ直し「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ」と言われた。

するとペトロが、例によって真っ先に「このとおりに、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました」と応じている。確かに、彼は舟も網も捨てて従っていた。マタイ福音書は「では、わたしたちは何がいただけるのでしょうか」と続けたと、ペトロらしい率直な御利益を求めた言葉を書き加えている。主イエスは「はっきり言うておく」と注意を喚起し、私のため福音のために、肉親、財産を捨てた者はこの世では苦しみに遭うが、捨てたものの百倍を受け、後の世では永遠の命を受けると言われた。

主イエスの福音のために、全てを捨て、命まで捨てた方がキリスト教界に大勢おられる。その方々によって信仰を教えられ、信仰に生きるように促されている。最大の敬意を払っている。ところが、私は全てを捨てていない。家出をするようにして神学校に行った。貧しい牧師の生活も経験した。しかし、捨てたものより、受けたものの方が圧倒的に多い。肉親、財産を捨てよという厳しい言葉の前で「私にはできない」とたじろぐ人が多いのではないか。主イエスはたじろぐ人に対し、できる、できないでなく「神にはできる。神は何でもできるからだ」と全能の神に委ねよと語られた。この言葉が私の救いである。